

国語科授業における一人一台端末活用 —高校2年生「鴻門の会」を例に—

金子 萌

1. はじめに

岐阜県では、「岐阜県教育振興基本計画（第3次岐阜県教育ビジョン）」（2019年3月策定）により、ホワイトボードや電子黒板機能付きプロジェクターの設置をはじめとするICT環境が整備されてきた。ICT機器を活用した「主体的・対話的で深い学び」を目指すことはもちろんのこと、2020年からは学習者一人ひとりの「個別最適な学び」の実現に向けて、一人一台端末環境の導入が進められてきた。2021年度には、すべての県立高校生に、タブレット端末が貸与され、学習支援アプリ「MetaMoJi Classroom」（以下MetaMoJi）が導入された。

本稿では、高等学校国語科授業における一人一台端末を活用した実践を取り上げ、その実際を報告する。

2. 単元の概要

(1) 教材

『史記』『項羽と劉邦』『鴻門の会』（『古典B 改訂版 古文編』大修館書店、平成29年検定済）

(2) 単元目標

- 作品に関心を持ち、登場人物の行動内容を意欲的に読み進めようとしている。
(関心・意欲・態度)
- 複数のテキストや場面のつながりを踏まえながら作品を読み、読解内容を言語化する。
(読む能力・書く能力)
- 漢文を読むための基本的知識・作品の歴史的背景を理解する。
(知識・理解)

『史記』は、本授業の学習者が高校漢文学習で出会う初めての史伝である。主教材となる「鴻門の会」は劇的要素に満ちており、事件の流れや登場人物の行動を視覚化したり、動作化したりと、様々な表現方法で作品世界を読み深めることができる。

(26)

本実践の授業者は、一つのテキストを深く読み味わう指導を中心とした学習活動を行ってきたため、複数のテキストや歴史的背景を重ねて読む指導は十分でなかった。

そこで本単元では、該当テキストの一連の流れと教科書未採録部分のテキストを関連づけながら読むことで、作品を多角的に読み味わうことを目標として設定した。このねらいを達成するためには、訓詁注釈に終始するのではなく、作品世界の言語表現を主体的に吟味・評価できるような学習課題の設定が欠かせない。

教科書に採録されている「鴻門の会」は、登場人物それぞれの思惑のもとに様々な主張が展開され、人物たちの状況・心情が刻々と変化していく様子が語られている。なかでも、劉邦の危機的状況の中で繰り広げられる下記の「樊噲」の語りは、物語を大きく動かすきっかけとなっている。

樊 噲 曰、臣 死 且 不 避。卮 酒 安 足 辞。夫 秦 王 有 虎 狼 之 心。
殺 人 如 不 能 举、刑 人 如 恐 不 勝。天 下 皆 叛 之。懷 王 与 諸
將 約 曰、先 破 秦 入 咸 陽 者、王 之。今、沛 公 先 破 秦 入 咸 陽。
豪 毛 不 敢 有 所 近、封 閉 宮 室、還 軍 霸 上、以 待 大 王 来。故
遣 將 守 関 者、備 他 盜 出 入 与 非 常 也。勞 苦 而 功 高 如 此。
未 有 封 侯 之 賞。而 聽 細 說、欲 誅 有 功 之 人。此 亡 秦 之 続 耳。

この一連の発言は、論点が的確に整理されており、事態を収束させようと相手を説得するための言語技術が用いられている。樊噲の使う言葉の一つひとつが、相手（項羽）の怒りを鎮めることに貢献するレトリックとして機能しているのである。この見事に計算されたレトリックを読み味わうために、本実践では、評価読みの観点として用いられる「内容」「構成」「表現」の三項目で樊噲の語りを点数化することを主たる学習活動とした。また、樊噲の言語表現の工夫を学習者が実感するためには、前後の文脈の理解が欠かせない。なかでも、教科書未採録部分のテキスト「項羽大いに怒る」は、樊噲の発言意図に大きく関与している。そのため、語りそのものの分析に加え、複数場面との比較を促すことで、物語全体における樊噲の発言の意図を考察できるようにした。

(3) 単元の実際

時間	教材	主な学習活動の流れ
1	「項羽と劉邦」 (一)	○作品に関する基礎知識を習得し、項羽の人物像を大まかにとらえる。 ・項羽の若い時のエピソードを読み取る。 ・項羽が始皇帝を見た時の反応はどのようなようであったかを記述する。 ・学習記録課題「司馬遷は項羽をどんな人物として描いているか？」

2	「項羽と劉邦」 (二)	○劉邦の人物像を大まかにとらえる。 ・劉邦を MetaMoJi 内でイラストにする。 ・劉邦の人柄、仕事に関するエピソードを読み取る。 ・学習記録課題「司馬遷の描く項羽と劉邦の違いとは何か？」
3	「項羽と劉邦」 (二)	○項羽と劉邦の人物像の違いをとらえ、自分の考えをもつ。 ・劉邦の身に起きている不思議な現象を読み取る。 ・始皇帝を見た時の項羽と劉邦の相違点を記述する。 ・学習記録課題「項羽と劉邦のどちらをリーダーとして支持するか？」
4	「鴻門の会」 (一)	○劉邦の謝罪の言葉の内容を読み取り、評価する。 ・リード文から、歴史的背景を理解する。 ・劉邦の発言そのものを理解した上で、その発言に込められた意図を推論する。 ・学習記録課題「劉邦の謝罪の言葉の評価できる点・できない点は何か？」
5	「鴻門の会」 (一)	○劉邦の謝罪に対する項羽の対応の様子を読み取り、行動の理由を推論する。 ・項王の主張(発言)内容、劉邦の発言とのつながりを読み取る。 ・「飲」の場面、范増が項王に合図をする場面を MetaMoJi 内で図解化する。 ・学習記録課題「項羽は劉邦の謝罪をどのように受け入れたのか？」
6	「鴻門の会」 (一)	○范増、項莊、項伯の動きを把握し、それぞれの人物像を読み取る。 ・范増の発言内容を MetaMoJi 内でまとめる。 ・人物の行動内容を読み取り、挿絵に人物名を書き込む。 ・学習記録課題「サブキャラクターはどんな人物か？」
7	「鴻門の会」 (二)	○樊噲に関する叙述を読み、人物像を読み取る。 ・樊噲と張良の発言内容を具体化し、会の緊迫した状況を読み取る。 ・樊噲登場の場面を MetaMoJi 内で図式化する。 ・学習記録課題「樊噲はどのような人物として設定されているか？」
8	「鴻門の会」 (二)	○樊噲と項羽の人物像を明確にする叙述内容をとらえる。 ・項羽と樊噲の対面時における両者の行動内容を MetaMoJi 内で図式化する。 ・項羽と樊噲の発言内容を読み取り、樊噲の人物像を推論する。 ・学習記録課題「樊噲が飲食をする場面の効果とは何か？」
9	「鴻門の会」 (二)	○樊噲の発言内容を把握し、他の場面とのつながりを推論する。 ・「項羽大いに怒る」を読み、項羽の怒りの理由を読み取る。 ・樊噲の発言内容が、この場面において効果を発揮する理由を推論する。 ・学習記録課題「樊噲はこの発言で何を伝えようとしているのか？」
10	「鴻門の会」 (二)	○樊噲の発言内容の意図を把握し、評価する。 ・樊噲の発言そのものを理解し、「項羽大いに怒る」との関連を推論する。 ・樊噲の発言の表現、構成、内容を吟味し、評価する。 ・学習記録課題「樊噲の発言をあなたはどのように評価するか？」
11	「鴻門の会」 (二)	○物語の結末を把握し、作品全体を評価する。 ・樊噲の発言後の項王の様子を読み取り、その場の状況を推論する。 ・物語の結末、人物の行動理由から、作品全体に対する自分の考えをもつ。 ・学習記録課題「なぜ、『項王未以応』であったのか？」

【シート①】

「鴻門の会」⑦

2年組 番氏名

(45)

本時の
目標

樊噲の主張内容を評価する。

主張A

夫秦王有虎狼之心。

殺人如不能举、刑人如恐不胜。

天下皆叛之。

- 19 虎狼之心 虎狼のようになやみ心。
- 20 不能举 あまり多くて、数えきれない。
- 21 恐不胜 あまり多くて、(風情)しるべないのを恐む。

主張B

懷王与諸將約曰、

『先破秦入咸陽者、王之。』

今、沛公先破秦入咸陽。

- 22 懷王 囚殺の王。沛公や項王らの擁護の盟主して秦の咸陽へ命じた。
- 23 先破 ほんのわずかの間に破る。

主張C

豪毛不敢有所近、封宮室、還軍霸上。

以待大王来。

- 24 霸上 灃水(現在の陝西渭南安市)の東。

故遣将守关者、備他盗出入与非常也。

劳苦而功高如此。

- 25 關 關所。灃ここでは、函谷關。

主張D

未有封侯之赏。

而聽細說、欲誅有功之人。

- 26 封侯 賞 諸侯にとりたる爵賞。
- 27 細說 つまらない者先け口。

此亡秦之续耳。

- 28 續 二の舞。

窃為大王不取也。

- 29 窃 内々に。私が考ますに。 卿自分の考を言うときの謙の言葉。
- 30 不取 賞取かねる。

【シート③】

禁脔の發言内容を詳しく読む。

重要句法

不 _二 敢 _一 <small>今_レ毛_一</small>
--

詠書

敢_レて_レ「せす
決_レて_レ「よつとしなり

主張

行動①

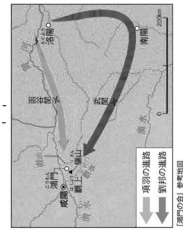
豪毛不_二敢_一有_レ所_レ近_レ封_一閉宮室_一

還軍_一霸上_一以_レ待_レ大王_一來_一。

行動②

故遣_レ將_一守_レ関_一者_一、

備_レ他_一盜_一出_レ入_一与_レ非_一常_一也。



勞_一苦_一而_レ功_一高_レ如_レ此_一。

行動①

行動②

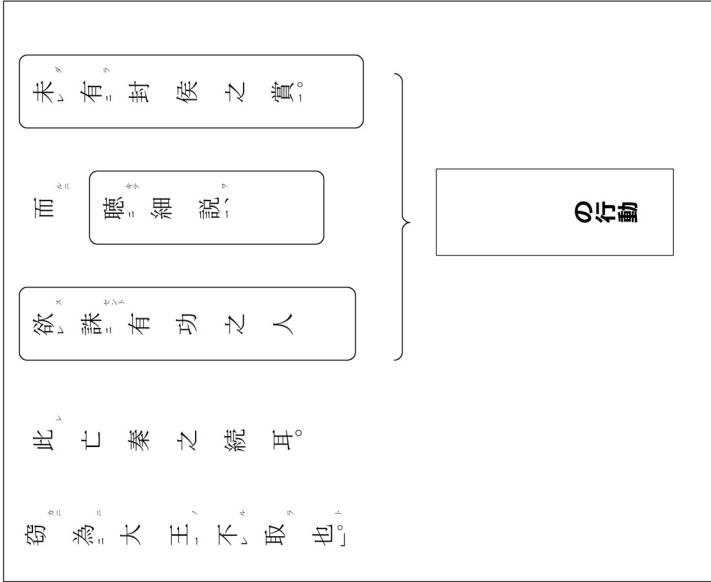
考えるひた

Q 「大王」とは誰のことか？

Q 將兵を派遣して函谷関を守らせたのは何のためか？

【シート④】

主張D



(45)

考えをひね

Q 「細説」とは、具体的に何のことか？

Q 「有功之人」とは、具体的に誰のことか？

【シート⑤】

聴者の発言内容を評価しよう。

(4.5)

内容点 話題にしている点については、適切／効果的か？

(5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1)点

評価の理由／記入してください

構成点 話す順序は、適切／効果的か？

(5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1)点

評価の理由／記入してください

表現点 使っている言葉は、適切／効果的か？

(5 ・ 4 ・ 3 ・ 2 ・ 1)点

評価の理由／記入してください

総得点(3項目の合計)

【シート⑥】

補助資料

項羽の率いる楚軍は、前進しながら秦の土地を攻略し平定して、函谷関に到着した。

楚軍行略_レ定_レ秦地_一、至_ニ函谷関_一。

函谷関にはすでに沛公の兵があり、関所を守っていて進んで行くことができなかった。

有_レ兵守_レ関_一、不得_レ入_一。

その上また沛公がもはや都の威陽をうち破ったといふことを聞き、

又聞_ニ沛公已_ニ破_ニ威陽_一、

項羽は非常に怒り、当陽君英布らをやり、函谷関の守備をうち破らせた。

項羽大怒_一、使_ニ当陽君等_一擊_レ関_一。

項羽はすぐそのまま関中に入り、戲西に進駐した。

項羽遂_ニ入_ニ于_ニ戲西_一。

このとき沛公は朝水のほとりに置をとどめ、まだ項羽にお目にかかる機会を得なかった。

沛公軍_一霸上_一、未_レ得_レ与_ニ項羽_一相見_一。

沛公の左司馬であった曹無傷が人々を項羽のところへ連れてきて言わせたに

沛公左司馬曹無傷_一、使_ニ人_一言_ニ於_ニ項羽_一曰_一、

「沛公は関中の王となろうと欲い、

「沛公欲_レ王_ニ関中_一、

子嬰を宰相にして人望をあつめ、府庫にある珍しき宝物はすべてこれを保有している。」

使_ニ子嬰_一為_ニ相_一、珍宝_一尽有_レ之_一。

項羽は大いに怒って言うには、「翌朝は兵士どもに酒食の大振舞いをして大いに士気をあげろ。」

項羽大怒_一曰_一、且_レ日饗_ニ士卒_一。

一饗_ニ沛公_一の軍をうち破らしてしまおう。」

為_ニ擊_一破_ニ沛公_一軍_一。



【シート⑦】

URLは
見るモードにすると、
アクセスできます。

学習記録

課題

樊噲の発言へのコメント評価を書いて。

樊噲の発言、
あなたは
どう評価する？

(4.5)

Blank area for writing comments and evaluations.

後期中間審査への道 十二 そして君たちは、受験生だ！

傍線部の問いに答えよ。

夫秦王有虎狼之心。殺人如不能举、刑
 人如恐不胜。天下皆叛之。懷王与諸将
 約、^{①内容}先破秦入咸陽者、王之。今、沛公先破秦入
 咸陽、^{②内容}豪毛不敢有所近、封閉宮室、還軍霸上、以
 待大王来。故遣将守关者、^{③内容}備他盜出入与非常
 也。劳苦而功高如此、^{④書き下し}未有封侯之賞、而聽細說、
 欲誅有功之人。此亡秦之續耳。^{⑤書き下し}胡為大王不取也。^{⑥読み}

3. 授業の実際 — 一人一台端末活用場面を中心に —

ここでは第10時の授業の実際を示す。なお、学習者には【シート①】と【シート⑦】を授業プリントとして紙媒体で配布している。【シート②】～【シート⑥】は、MetaMoJi上での「ノート」として配布した。

また、樊噲の語りを下記のように4つに分け、表現を分析する際の共通用語として「主張A～主張D」と名付けた。

樊噲曰、「臣死且不避。卮酒安足辞。【主張A】夫秦王有虎狼之心。殺人如不能拳，刑人如恐不勝。天下皆叛之。【主張B】懷王与諸將約曰、先破秦入咸陽者、王之。今、沛公先破秦入咸陽。【主張C】豪毛不敢有所近、封閉宮室、還軍霸上、以待大王來。故遣將守關者、備他盜出入与非常也。勞苦而功高如此。【主張D】未有封侯之賞。而聽細說、欲誅有功之人。此亡秦之統耳。

① 前時の学習内容の振り返り

前時では、樊噲の語りの前半部分（主張A・主張B）の内容把握を行った。その際授業者からは「樊噲の主張の目的・伝えたいことは何？」と問いかけ、学習者はグループごとに解釈した。その時にグループでまとめたシートを授業者が切り貼りしたものが【シート②】である。このシートを読み合うことで、学習者が前時の学習内容を想起できるようにした。

② 樊噲の主張をMetaMoJiシートにまとめる。

音読後、樊噲の語りの後半部分（主張C・主張D）の読解を行った。学習者が書き込みをするためのワークシートとして【シート③】【シート④】を用いた。短時間で内容をつかむことができるように、本文を構造化して示している。また、読解を助けるための句法や補助発問をシートにあらかじめ付すことで、個々の学力に応じた支援をすることができた。

【シート③】【シート④】の内容は、全体で共有し、主張C・主張Dの内容を把握させた。

③ 樊噲の語りを評価し、ペア・全体で共有する。

【シート⑤】が、樊噲の語りを評価するワークシートである。授業者が「樊噲の発言に成績をつけるとしたら、どんな評価にする？」と投げかけ、学習者は樊噲の語りを数値（点数）で評価し、その理由を記述した。【シート⑤】には、評価読みの観点をもとにした3項目「内容：話題にしていることがら適切／効果的か」「構成：話す順序は適切／効果的か」「表現：使っている言葉は適切／効果的か」を示し、それぞれ記述できるようにした。また、【シ

ト⑥】に教科書未掲載部分の「項羽大いに怒る」の本文を載せ、樊噲の語りとのつながりを分析させた。

個々の解釈の後、ペアで【シート⑤】を見せ合いながら、互いの解釈を共有した。

【シート⑤】

④ 樊噲の発言へのコメント評価を記述する。

個々の意見を全体で共有後、学習のまとめとして樊噲の語りに対するコメント評価を【シート⑦】に記述した。

4. 成果と課題

学習者による「樊噲の語りへのコメント評価」の記述をもとに、本実践の成果と課題を述べる。

学習者 A～C は、語られる内容そのものだけでなく、他の場面の情報を組み合わせながら樊噲の語りを評価できている。

樊噲の発言の目的を評価しよう

15

内容面 (話題していることから適切/効果的か?) (5) 4 3 2 1 点	評価理由 (任意) など 最後の自分の意見を言うときは論理の言葉を使うことで買われにくいようにしている 項羽↓大生	構成面 (話す順序は適切/効果的か?) (5) 4 3 2 1 点	評価理由 (任意) など A1Dの構成で発言することによって、その行動の理由がうかがいやすくなった	内容面 (話題していることから適切/効果的か?) (5) 4 3 2 1 点	評価理由 (任意) など 主張の中で項羽の怒りポイントを押さえて釈明して助言したこと示すことで怒りを鎮めた
---	--	--------------------------------------	--	---	--

樊噲の発言(3項目)の合計

樊噲の発言の目的を評価しよう

13

内容面 (話題していることから適切/効果的か?) (5) 4 3 2 1 点	評価理由 (任意) など 何もしらないで来てしまっただけで怒られているのにも関わらず、一つひとつのポイントを解説して項羽が納得するような内容・言葉遣いで対応できているのですばらしい!	構成面 (話す順序は適切/効果的か?) (5) 4 3 2 1 点	評価理由 (任意) など 生(の)肉を食べて酒を飲んでいるのに、正確なことを言えてすごいと思いました。	内容面 (話題していることから適切/効果的か?) (5) 4 3 2 1 点	評価理由 (任意) など 沛公がピンチの時に来て、項羽に構成、内容、表現すべてが整っている言い訳をあの瞬時に考え、言うことができたりとても素晴らしい!また、その前に門番と戦ってから来ていることも踏まえると、体力やメンタルが優れていることがわかる。
---	--	--------------------------------------	--	---	--

樊噲の発言(3項目)の合計

学習者 A : 何も知らないで来てしまっただけで怒られているのにも関わらず、一つひとつのポイントを解説して項羽が納得するような内容・言葉遣いで対応できているのですばらしい!

学習者 B : 樊噲の評価は3つの観点においてとても良かったです。沛公の怒りを解釈し理解できていました。生の肉を食べて酒を飲んでいるのに、正確なことを言えてすごいと思いました。

学習者 C : 沛公がピンチの時に来て、項羽に構成、内容、表現すべてが整っている言い訳をあの瞬時に考え、言うことができたりとても素晴らしい!また、その前に門番と戦ってから来ていることも踏まえると、体力やメンタルが優れていることがわかる。

学習者 D、E は、樊噲が用いた言葉 (表現) を吟味・評価している。また、学習者 F～H は、評価読みの観点として【シート④】に掲げた「順序」の妥当性を評価している。

学習者 D : 樊噲の発言は、項羽の怒りのことについて触れて話していたから、発言の内容が明確で良いと思った。またそれを言った後に、自分は下の立場であるからと謙遜して発言する

ところも良いと思った。

学習者 E: 樊噲の発言は、項羽の間違いについて、相手を怒らせずに伝えているし、こちらが行動に移った理由も書かれていて、項羽を怒らせないように「大王」や自分のことを「つまらない者」と言って謙遜していてもいいと思う。それに、ここに来てすぐにこの言葉が出てくるのがすごいと思う。

学習者 F: 樊噲は事前に何の打ち合わせもなく、項羽の怒りを鎮めることができているのでとてもすばらしいと思います。また、文を作るときの構成がとても良かったです。もしも一番初めに主張 B のようなことを言っていたら、樊噲の首が飛んでいたと思うので、とても良い文の構成をしていたと思います。

学習者 G: 主張 B を先に持ってこず、大王の機嫌取りをして、それから大王の間違いについて、すべてが勘違いであるという事実を教えてあげることはとても良い。構成も順々に説明できていて良かった。

学習者 H: 樊噲は項羽の怒りを抑えるために発言するはずなのに、主張 A、B では項羽のことは何も書いてなく、なおさら沛公の評価を高くして、項羽に不満を持たせているのではないかと感じたので、良くないと思ったら、主張 C で「大王」などの言葉や褒める言葉を使い、悪い→良い印象に変えていて上手いなと思った。

また、学習者 I～M は、樊噲が説得のために用いた事柄（内容）について、別テキスト「項羽大いに怒る」を関連付けながら評価できている。

学習者 I: 事前の準備が無かったにも関わらず、適切な言葉遣い、沛公の行動とその理由、項羽の誤解を解くための内容がしっかり盛り込まれていて、とても良い主張だと評価できる。

学習者 J: 樊噲は即興でもっともらしいような主張ができてるのが素晴らしい。項羽の怒りは勘違いであることをきちんと説明し、項羽の怒りを鎮めることで樊噲の任務である「沛公を守る」にはとても適切な対応だった。

学習者 K: 話すことを考える時間も少なかつたにも関わらず、事実をもとに項羽が怒っていることについて一つずつ理由をつけて怒りをおさめようとしているのがとても良いと思いました。そして自分のお願いがはっきり伝えられて良かったと思います。

学習者 L: はじめに事実を述べたことで樊噲の発言には信憑性が増していて、相手をだますにはとても良い話し方だと思いました。

学習者 M: 樊噲はとても頭のいいやつだと思った。理由は、項羽の怒りポイントに全て対応していることで、実際は、普通に項羽を攻めるつもりだったのに、それに代わる言い訳を、筋を通して考えてそれを話しているから。

以上のことから、学習者のほとんどが、樊噲の語りを評価・吟味した上で自己の解釈を述べていると推察できる。本実践では、授業者がねらいとした「複数テキスト・複数の場面を

組み合わせて読むこと」については、おおむね達成できた。【シート⑥】を評価読みのための根拠資料として活用することで、単一テキストのみに依らない深い読みが実現できたとと言える。また、【シート⑤】を学習者自身が評価読みの分析ツールとして活用し、樊噲の語りを複数の観点から解釈・整理することができた。【シート⑤】を共通フォーマットとすることで、個人の解釈を他者にわかりやすく伝えるためのツールとしても機能した。

一方で、樊噲の主張は優れている、という前提のもとで解釈を行ったため、学習者N～Pのような、樊噲の発言の良さを分析しつつ、読者である自己の解釈を取り入れながら、樊噲の語りを批判的に読むことへの指導は十分ではなかった。学習者N～Pの記述内容を取り上げ議論することができれば、学習者自身もつ言語表現そのものへの見方・考え方を働かせることができたと思われる。

学習者N：主張Aで秦王の事実を述べた上で、主張Bで沛公が王になるべきだという発言の順序はいいと思うが、「秦が亡くなる二の舞になるだけだ」のような表現はよくないんじゃないかと思った。

学習者O：最終的には自分の上の立場でもある項羽を納得させてしまったところが評価できる。しかも樊噲は呼ばれてすぐに来たにも関わらず、即興でしゃべることができるのが頭がきれていると思った。しかし、自分は主張Bから主張Dにいってしまったもかまわないのではないかと思った。

学習者P：項羽が怒っているところをすべて理由付きで説明できているし、それでいて冷静さを忘れず、項王を「大王」と言ってリスペクトできているのですばらしいと思った。しかし、Aの部分はそこまで必要ではないと思うし、もしどうしてもこの文を入れたいのならD付近で秦王に関連させるべきだと思った。

さらに読みを深化させるためには、樊噲のここでの語りが物語としてどのように機能しているかを問うことも必要であろう。合わせて今後の課題としたい。

5. おわりに

これまでの授業実践の中で見えてきた、一人一台端末活用の利点は次の二点である。一点目は、情報機器が新しい形のコミュニケーションツールになり得ることである。授業者と学習者、学習者同士は画面を通じていつでもどこでも繋がるようになった。これまでは、授業者が個々の思考を拾い上げるためには、学習者により言語化されたものを「聞く」「読む」ことを行うしかなかった。しかし、個々の端末を介することで、学習者に内在する思考を「見る」ことが可能となる。思考の過程を文字以外で表現することもできるし、

完成された言葉ではなく、消したり書いたりする姿、あるいは何も書かない姿からも、学びをリアルに捉えることができるのである。

二点目は、常に授業者と学習者が膨大な情報を共有できることである。これまでは、ワークシートや PowerPoint を用いながら、学習者への情報伝達をいかにわかりやすく行うかを試行錯誤してきた。また、従来のワークシートや板書を用いた「わかる授業」では、伝達すべき情報を精選しなければならず、授業者により取捨選択された教材や資料しか提示できなかった。しかし、あらゆるメディアを教室に持ち込むことが可能となった今は、量を絞ることなく教材や資料を手渡せる。Web ページ、図表や写真など、授業者から示す情報は当然のことながら、学習者自身がインターネットを通じて情報を取得しながら読みを深化・拡充することも、一人一台端末があれば容易に行える。

学びを深めるためのツールとして、今後も一人一台端末の効果的な活用方法を検討していきたい。

参考文献

- ・井上尚美 (1998) 『思考力育成への方略—メタ認知・自己学習・言語論理—』、明治図書、pp.77-78。
- ・森田信義 (1989) 『筆者の工夫を評価する説明的文章の指導』、明治図書。
- ・森田信義 (2011) 『「評価読み」による説明的文章の教育』、溪水社。

(かねこ もえ・岐阜県立長良高等学校)